



VOL. 53

SッOジGジIハラのない
日常を、
すべての人に

◎特集



SOGIハラのない 日常を、 すべての人に

最近、国や企業、ドラマなどで多様な性の人びとや、その人びとに対する受容や理解が進み、様々な制度ができています。

みなさんも「LGBT」という言葉を聞いたり、その意味を知っているのではないのでしょうか。

しかし、社会の性別はこうあるべきという固定観念は、そこに当てはまらない人への偏見や嫌がらせ、差別を生み、未だに多くの人を苦しめています。

このような嫌がらせ、差別をSOGI（ソジ）ハラと名づけ、社会からなくし、法整備につなげていこうと取り組んでいる

「性的指向および性自認等により困難を抱えている

当事者等に関する法整備のための全国連合会（通称：LGBT法連合会）」の神谷悠一さんと綱島茜さんに、お話を伺いました。

◎SOGI（ソジ）とは？

「性的指向：好きになる人の性別」と
「性自認：自分がどの性別かという認識」のこと

[Sexual Orientation][Gender Identity]
SOGI

◎LGBTとは？

SOGIについて、世の中では「好きになる人は異性である」、
「生まれ持った体の性別と自分の認識する性別は同じである」のがあたりまえと考えられがちです。

実際にはその典型に当てはまらない人たちもいます。

それらの人びとを総称して、

セクシュアル・マイノリティ（性的マイノリティ/性的少数者）と呼びます。

また、セクシュアル・マイノリティの

代表的な人びとの頭文字を取ってLGBTともいいます。

L レズビアン：女性を好きになる女性

G ゲイ：男性を好きになる男性

B バイセクシュアル：両方の性別を好きになる、または相手の性別にこだわらない人

T トランスジェンダー：身体の性別に違和感があり、別の性として生きたいと望む人

誰もが対象になり得るハラスメント

SOGIハラ

SOGIハラとはどのようなハラスメントでしょうか？

SOGIハラは、だれもが経験し見聞きをしているものです。小学校などで「おまえホモか？」「レズだろう」などと言うのを聞いたことがあるのではないのでしょうか。LGBT当事者にも、そうでない人にも、当事者に見えたからということと投げかけられるハラスメントです。

LGBTの困難には3つの特徴があります。

①ジェンダー規範の強要・強制による困難（ジェンダー規範：性別によってしてはいけないこと、しなくてはいけないこと、望ましいこと、望ましくないこと）

②存在が見えにくいという困難（トランスジェンダーの人をはじめ、状況などにより可視化せざるを得ない場合もある）

③家に帰っても地域に戻っても頼れる人がいないこと（存在が見えないので、相談できる人、公的な対応が望める人、同じ境遇の仲間などがいるのかわからない）。

これらの特徴から、ハラスメントがあっても、加害者にハラスメントという認識がなかったり、誰かがそれにより嫌な思いをしていることが想定されていない、当事者自身も嫌な思いをどう言葉に表してよいのか分からない、ということがよくあります。「セクハラ」という言葉がなかったころの女性たちが感じていた「モヤモヤ」に近いのかもしれない。

だから、「だれを好きになるか（性的指向）、自分の性別をどう認識しているか（性自認）」ということに関して、揶揄（やゆ）する、あるいは否定的、暴力的な言葉や行動は、誰に対してもハラスメントになるんですよ。」そうした思いを込めて、国連で使用されているSOGI（ソジ）に関するハラスメントと名付け、可視化できればと思いました。

SOGIハラは相手の存在を否定する

昔はLGBTに対するイメージは限られていましたが、最近では多様な性の芸能人がテレビに出演し、LGBTに関する報道も多くなりました。とはいえ、一般の人たちの理解は、まだぼんやりとしたものではないかもしれません。実際にどういう人たちがどのように日々生活し、何に困っているのかについて、わからない、といったところですよ。「いじめられている」「差別されている」「ひどい言葉を投げかけられている」などは聞いたことがあると思います。しかし、散発的な報道の中では、全体として具体的なイメージにまで浮かび上がってこなかったのではないのでしょうか。また、ひとくちにLGBTといっても、それぞれに抱えている困難は微妙に違います。そこでまずは様々なLGBTの人たちが、何に困っているのかを明らかにしてみようと考えて、私たちは「困難リスト」※1を作りました。

どのような困難が明らかになったのでしょうか？

調査を進めると、学校、医療、職場、そして役所の窓

口など公共サービスを受ける場面、民間企業のサービスを受ける場面、あるいは刑事訴訟の手続きなど、日常から非日常のあらゆる場面で困難に直面していることがわかりました。それらの困難のかなりの部分は、ハラスメントによるものでした。就職差別や解雇など、目に見える差別だけではありません。どこが安全で安心な場所なのかもわからないほど、嫌がらせや差別的な言動などのハラスメントを日常的に投げかけられています。そして、LGBT当事者は、女性がかつてはセクハラに対してそうであったように、学校や職場でこんなことを言われることは「しょうがない」と思うしかない状況にあります。

そう思いながらも、常に「嫌だ」という気持ちは溜まっています。その結果、自死にいたるケースも少なくありません。自分の友だちの一人が自死すると驚くことだと思いますが、LGBTの当事者にとっては、周囲に何人もそんな友だちがいても特別なことではないのです。

私（神谷）自身も4人の友人や知り合いを自死で失くしました。そのうちの一人は、自殺する2日前まで私と会ったり、連絡を取り合っていたのです。後日、ご遺族にこの方の遺されたノートを見せていただきました。そこには職場で言われたこと、悩みごとがたくさん書いてありました。

ハラスメントというと「軽い」と受け取られることもあります。もちろんすべてが死に繋がるわけではありません。

※1：性的指向および性自認を理由とするわたしたちが社会で直面する困難のリスト（LGBT法連合ホームページ参照）

○望まない性別での生活の強要



戸籍は女なんだから
セーラー服で登校しなさい
→ 苦しい、死にたい

○不当な異動や解雇、不当な入学拒否や転校強要



男なのに化粧して出社し続けるなら異動だぞ
→ 私は女…なぜわかってくれないの

○誰かのSOGIについて許可なく公表すること



あの子、しズって知ってた？
※このような行為をアウティングといいますが
→ 信頼してたからカミングアウトしたのに…

出典：リーフレット 『SOGIハラ』ってなんですか？

◎SOGIハラ

好きになる人は必ず異性である、生まれ持った体と自分の認識は必ず同じであるといったSOGIに関する決め付けから発生した、差別的な言動や嘲笑、いじめや暴力などの精神的・肉体的な嫌がらせを受けること。

○差別的な言動や嘲笑、差別的な呼称



木もって気持ち悪い
女なんだから化粧くらいしろよ
なよなよして女めたい
→ つらい

○いじめ・無視・暴力



俺らもゲイだと思われたらキモくね？
無視しようぜ！
→ 誰か助けて

ん。しかし、SOGIハラは日常的に蔓延していて、一人の人間の存在を否定し続けるものであり、逃げ場を奪う、そんな重大なハラスメントであるということを知ってほしいと思います。

このようなハラスメントをなくすために、そして自分が受けているのはハラスメントなんだ、ハラスメントを受けずに安全・安心に生きていけるはずなんだと当事者自身が改めて認識するためにも、多くの人にSOGIハラという言葉を知ってもらいたいと思います。

社会のあらゆる場面で、人を苦しめるSOGIハラ

家族からのSOGIハラ―家族との縁が切れてしまう

研究グループ「※」が実施した全国の訪問調査によれば、「身近な人が性別を変えたらどう思うか」という設問において、「友人」の場合、「同僚」の場合など複数の仮定で答えを尋ねたところ、「自分の子ども」である場合が、「いやだ」という答えが最も多かったといえます。実際に、私の周囲や相談事例などでも、親に受け入れてもらえず、勘当されたりして地方から都市部に来る人は大勢います。たとえ親に理解してもらえたとしても、親戚に對して、いないものとされたり、親族の集まりに呼ばれないばかりか、親の葬式にも参列させてもらえなかったという話もあります。その結果、当事者は人間関係が切れて、社会的な関係性という名のセーフティネットからこぼれ落ちてしまっています。

職場のSOGIハラ―負のスパイラルに

職場でSOGIハラを受け続けたり、LGBTであることを悟られないために本当ではない自分を演じ続けることを当事者は強いられています。それは差別や偏見を恐れてのことです。しかし、それが続くと、突然仕事に行けなくなるなどメンタルな面で症状が出てきます。差別を恐れて医者にも話せず、病院も行けない。誰にも話せないまま仕事を辞めてしまう。「次はカミングアウトして働こう」と思って履歴書にLGBTであることを書く」と採用されない。こうして就労でうまくいかずに、経済的に困窮し、自信をなくしていくケースが非常に多いのです。

かろうじて働いていても、薬を服用しながら、ぎりぎりのラインで生きているという人はたくさんいます。

カミングアウトに関するSOGIハラ

学校で子どもが先生に、自分の性的指向や性自認について相談したときに、「青春時代の気の迷いだ」「いつか治る」などと言われると、いじめとは違った意味で否定されたという気持ちになります。時間をかけて迷った末に思い切ってカミングアウトしたことを否定されると、ずっと悩んできた過程・歴史も含めて、全て否定された気持ちになります。

ある人は職場で上司に、「性同一性障害」であると公表したところ、本人から職場に説明して欲しいと言われ、朝礼で強制的にカミングアウトさせられたという事もあります。他にも、誰かにカミングアウトした内容を、勝手に周

囲が広めてしまうと、職場自体が、ハラスメントにあふれた暴力的で危険な場となってしまいます。どこの誰が自分の隠していた性の在りようを知っているか分からない、誰から差別的なことを言われたり、暴力的なことをされるか分からない、そんな恐怖に陥るからです。

カミングアウトをしていなくても、他の人たちが「なよなよしているよね」「（新宿）2丁目に行ったほうがいいんじゃない」など冗談めかして言われているのを見て、カミングアウトできる環境ではないと判断してしまいます。かつて、会話の潤滑油と受けとられていた言動が、実はセクハラだったと気付いたように、SOGIハラと言動にも気付く必要があるのではないのでしょうか。

子どもが受けるSOGIハラ

性的マイノリティの人について、周囲の大人が「気持ち悪い」「そんな人いない」「まっとうな仕事に就けない」と話すのを見続けると、当事者である子どもは未来が見えず、「まともな人間として生きていけないんだ」と悩み、キャリアを閉ざしてしまう恐れがあります。そのような環境ではロールモデルも作れません。私（神谷）自身18歳の頃は、自分は30歳までに死ぬだろうと思っていたいました。周りに30代の当事者が見えず、ロールモデルがいなかったからです。

子どもにとってさらに深刻なのは、親に否定されてしまった場合です。家から出ていくことも、逃げ場を探すこともできません。インターネットで相談窓口を探そうにも、侮蔑的な言語しか見聞きしていないため、適切な

安心して支援を受けられる場づくり

検索ワードを知らず、アダルト系のサイトしか出てこない、といったこともあります。教育が重要ですが、学校の授業で、性の多様性について取り上げられることは多くありません。

既存の福祉業界でも、ジェンダーやLGBTに関して敏感な人が多いとは言えません。LGBTの人たちを支援につなげようとしても、そこが当事者のニーズに合わない場合や、「理解してもらえなかった」という気持ちしかもてない場合が少なくありません。また、支援する側からハラスメントのような言葉が出てしまうこともめずらしくありません。企業や自治体でLGBTに関する制度などができていますが、ハラスメントのある環境下では、制度を使おう、支援を受けようと手をあげにくいのです。企業や行政には、ぜひ安心して過ごせる場所を作ってほしいと思います。

私たちが取り組めること

SOGIハラがあることで、地域や学校、会社などで生きづらさを抱えている人がいます。大切なことはSOGIハラを意識し、なくしていくことです。このインタビュを読んだ方が「私はSOGIハラをしない」とはっきり表明してもらえれば、社会は少しずつ変わっていきます。もしそうした表明ができなくても、普段か

性的指向および性自認等により困難を抱えている
当事者等に対する法整備のための全国連合会
(通称:LGBT法連合会)



2015年4月に性的指向および性自認等により困難を抱えている
当事者等に対する法整備を求めて設立された
全国の主に当事者団体を中心とした連合会。

▶ <http://lgbtetc.jp/>



『「LGBT」差別禁止の法制度って何だろう？
地方自治体から始まる先進的取り組み』
[LGBT法連合会編/かものがわ出版]



『わたしらしく、LGBTQ 1~4』

[ロバート ロディ、ローラ ロス著、LGBT法連合会 日本語監修/大月書店]

◎LGBT支援に取り組む団体

LGBTの人びとへの支援や社会への理解をひろめる活動をしている団体を紹介します。
ここに紹介するのは、今までにリーブラの事業にご協力いただいた団体です。
この他にも、たくさんの団体が全国で活動しています。(五+音順) [特=特定非営利活動法人]

○LGBTの家族と友人をつなぐ会 [特]



▶<http://lgbt-family.or.jp/>

LGBTの家族と友人などによる会。当事者自身が自分の性的アイデンティティを受け入れたたり、周りの家族や友人たちが当事者を理解できるようサポートする活動も行う。

○“共生社会をつくる” セクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク [特]



▶<http://www.kyouseinet.org/>

セクシュアル・マイノリティへの根強い偏見を解消し、その視点を国や地方自治体の政策に反映させるための、相談・支援を実施する全国組織。

○性同一性障害支援機構 [特]



▶<http://www.npogid.or.jp/>

性同一性障害の悩みを持つ人々への情報提供、精神的なケア支援、心と身体の外見上の不一致の緩和に役立つ服装類の有償提供、治療・施術までのサポート、社会的な自立支援を行う。

○虹色ダイバーシティ [特]



▶<http://nijiroidiversity.jp/>

企業・団体向けのLGBT研修、コンサルティング等を通じて、LGBT等の性的マイノリティが働きやすい職場づくりを支援。

○ハートをつなごう学校



▶<http://heartschool.jp/>

特に子どもたちのサポートを目的に立ち上げたメッセージサイト。いつか同じように悩んだLGBTの先輩から子どもたちへ、「一人で悩まなくていいんだよ」「君は君のままで大丈夫だよ」とメッセージを送ることで、孤立やいじめを防ぎます。

○ReBit (りびっと) [特]



▶<http://rebitlgbt.org/>

LGBTを含めた全ての子どもが、ありのままの自分で大人になれる社会を目指し、学校/行政/企業へのLGBT理解促進の取り組み、就活生支援などを実施。毎年開催する若者向けエンパワメントイベント「LGBT成人式」はこれまでに約5000人が参加。

◎LGBTについて理解したいとき読む本



こんなとき、どの本を読んだらいいの？
LGBTに関する書の道しるべとなる1冊
『にじ色の本棚 LGBTブックガイド』
[原ミナ汰・土肥いつき編著/三一書房]



当事者が人生を生きる上での
「どうしたらいい?」に答えます
『セクシュアル・マイノリティQ&A』
[LGBT支援法律家ネットワーク出版プロジェクト編著/弘文堂]



家族、支援者、教師など、
理解を深めて対応するために
『LGBTの子どもに寄り添うための本
カミングアウトから始まる日常に
向き合うQ&A』
[ダニエル・オウエンズ=リード他著/白桃書房]



LGBTの子どものために、
先生や親が知っておきたいこと
『先生と親のための LGBTガイド
もしあなたがカミングアウトされたなら』
[遠藤まめた著/合同出版]



学校教育関係者と
医療従事者のための情報が満載
『LGBTサポートブック
学校・病院で必ず役立つ』
[はたちさこ・藤井ひろみ・桂木祥子編著/保育社]



全く知識のない人も、
基礎から理解したいときにおすすめ
『LGBTってなんだろう?
からだの性・こころの性・好きになる性』
[薬師実芳著/合同出版]



主人公を通して、
自分の誤解と偏見に気づいていく(漫画)
『弟の夫』
[田亀源五郎作/双葉社]

○リーブラ図書資料室、または港区立図書館で借りられます。

『Aさんの場合。』

やまもとりえ著「祥伝社」



「隣の芝生は青い」——同僚や友人をうらやむことってよくあります。本書に登場するのは、同じ職場で働く独身キャリアアウマンのAさんと、子育てをしながら働くBさん。子どもを迎えに早退するBさんに対し「いいなあ」とつぶやくAさん。ところがBさんは「Aさんのようにもう少し仕事をしたい」と思っているのです。立場や価値観、ライフスタイルが全く違う2人ですが、それぞれ事情があり、悩んだり、妬んだり、自分の幸せを見つけていることがわかるだけで、気持ちがスッと楽になります。

「区民協力委員 小林純子」

『ママ、もつと自信をもつて』

中川李枝子著「日経BP社」



「自分の気持ちに素直になって、子どもを育てればいい」
これまで、児童文学者として、多くの童話・絵本を出版してきた著者からの、子育てに悩んでいるお母さんたちへの優しいメッセージ。かつて保育士だったころ、子どもたちから学んだことは、子どもは皆お母さんが大好きということでした。二部構成で、第一部は、著者の保育士時代の経験。第二部は、悩めるママの子育てQ&Aです。マニュアルを忘れてわが子をじっくり見ることで、よい本を読み聞かせることを勧めています。

「区民編集委員 尾崎綱賀」

連載

日本語に潜む

ジェンダー

第一回

「主人」は尊敬語?

○水本光美
[みずもとてるみ]

・北九州市立大学名誉教授
・日本語ジェンダー学会理事
▶<https://tmizumoto.jimdo.com/>



「主人に相談しないと……」私がこんな風に「主人」ということばを古い辞書から取り出して利用するのは、今では、セールスを断わる時くらいのもんです。自分の配偶者を「夫」「妻」ではなく、敢えて「主人」「家内」と呼ぶことは、基本的に個人の自由だとは思いますが、私にはこの呼び方に関連して苦い経験があります。

昔、アメリカの大学で教えていた90年代初頭に授業で、ある女子学生から日本語の配偶者の呼び方について批判的な質問が出ました。「主人というのは、my masterとか my landlord、つまり私が仕える人」という意味、なぜ日本女性は今でもこんな差別語に甘んじているのですか?」

私とその学生に説明した内容は、「妻が夫を家の主として尊敬を込めて呼ぶ」「家の主たる人一家の代表者」という意味もある「今では単なる符号」などです。

この私の説明に対し、その学生は「日本では夫婦は対等じゃないんですか」と手厳しく指摘。他にも「家内」「ご主人」「奥さん」などが批判の対象になりました。そして、学期末の授業評価には「先生は性差別主義者だ」と書いてありました。

それ以後、私は日本語に潜むジェンダーについて考えるようになりました。現在でも「主人」と呼ぶ人々が挙げる理由は25年前の私の説明とほぼ同じです。様々な差別表現が考え直され、「看護士」「保育士」等の男女共通の職業名が使われるようになった今日ですが、なぜ配偶者の呼び方は変わっていないのでしょうか。

「次回「夫さん」「妻さん」はいかが?」

平和のつどい～音楽と平和の祭典～(入場無料・入退場自由・事前申込不要)

港区平和青年団が伝える平和への強い想いと、平和への願いを音楽に乗せたオーケストラ演奏を通して、平和への想いは一緒であることを実感できるイベントです。クラシックからスタジオジブリ、ディズニーの名曲まで、東京室内管弦楽団の演奏によりお届けします。ぜひ、お子さまも連れてご来場ください。

- 平成29年8月26日(土) 午後2時～4時(開場午後1時30分)
- リーブラホール(港区芝浦1-16-1 みなとパーク芝浦1階)

第一部
港区平和青年団活動報告会
「語り継ごう、平和への想い」



第二部
平和祈念コンサート
出演:東京室内管弦楽団
演奏曲(予定):
●クラシック名曲選
●スタジオジブリ名曲選
●ディズニーメドレー



○問合せ:港区総務部総務課人権・男女平等参画係 Tel.03-3578-2014(午前8時30分～午後5時)

リーブラ相談室 心のサポートルーム 無料

電話相談

面接相談

法律相談

ご相談・ご予約は

家族、仕事、生き方、働き方、夫婦・親子・友人などの人間関係、離婚、DV(ドメスティック・バイオレンス)、デートDV、ハラスメントなど… どのようなご相談も受け付けています。

- 相談の秘密は固く守りますので、安心してご相談ください。
- カウンセラーがあなたといっしょに考えていきます。
- 弁護士による法律相談もあります。(面接相談・月1回)

港区立男女平等参画センター リーブラ相談室 [専用電話] 03-3456-5771

月曜日から土曜日まで開室!
火曜日・金曜日は、夜も開室しています。

	月	火	水	木	金	土
午前10時～午後4時	●	●	●	●	●	●
午後6時～午後9時		●			●	

*日曜・年末年始・臨時休館日を除き、祝日も開室。
*相談は無料です。まずはお電話ください。
*面接相談と法律相談はご予約ください。

◎ 今号の表紙



芝浦南ふ頭公園
芝浦南ふ頭公園は、上空にレインボーブリッジがかかり、東側は東京湾に面し、お台場を望むことができます。平成29年元旦には、「初日の出」を見る場所として、特別に早朝から開放され、集まった方々が初日の出の鑑賞を楽しみました。

港区男女平等参画情報誌「OASIS オアシス」第53号
平成29年(2017年)6月発行(年4回発行)

発行:港区立男女平等参画センター指定管理者
株式会社キャリアライズ
〒105-0023 東京都港区芝浦1-16-1 みなとパーク芝浦

区民編集委員:小野澤うばら、尾崎綱賀 区民協力委員:小林純子
デザイン:松本正樹 イラスト:別府由実子(表紙)

港区立男女平等参画センター「リーブラ」
〒105-0023 港区芝浦1-16-1 みなとパーク芝浦2階
Tel.03-3456-4149 Fax.03-3456-1254
▶libra@career-rise.co.jp ▶http://www.minatolibra.jp ▶Twitter:@minato_libra
[アクセス]
●JR「田町駅」東口(芝浦口) 徒歩5分
●地下鉄浅草線・三田線「三田駅」A6出口 徒歩6分
●ちいばす 芝浦南ふ頭(品川駅港南口行)「みなとパーク芝浦」徒歩0分
芝浦港南ルート(田町駅東口行)「芝浦一丁目」徒歩4分
●都営バス(田92-99)「田町駅東口」徒歩7分

